KOMEITO 公明党

公明こうべ

2023年 vol.3

発行：公明党神戸市会議員団　神戸市中央区加納町6-5-1　http://www.kobe-komei.net

危険で迷惑な空き家に手を打つ

公明党市議団は、令和4年度決算審査を通じて、どこまでも生活者目線で空き家対策、教育、障がい、医療など市民の生活を守り、すべての人が住みやすい「こうべ」の実現をめざし訴えました。

荒れ果てた空き家が近隣に迷惑をかけているという相談が増えています。

壁は崩れ瓦が今にも落ちそうで、敷地内にゴミの不法投棄、害虫やいたち、ねずみなどの棲家になっている。そんな困った空き家が神戸市内に約5000戸。

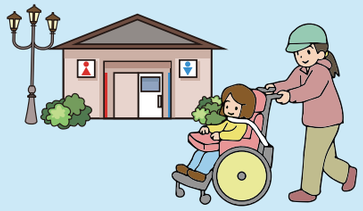
所有者が適正に管理すべきものですが、所有者に連絡が取れない場合が多く、対策が困難な状況です。このような危険で周囲に迷惑をかけている空き家を「特定空き家」と呼び、このようになるまで放置せず、管理が不十分な空き家を「管理不全空き家」として市が把握し、強力に指導するよう求めてまいりました。

本年6月には国会議員と協力のもと「空き家対策特別措置法」の改正を促し、「管理不全空き家」への「指導」しかできなかったところ、具体の対策を強力に所有者に迫る「勧告」制度を設けました。

この度の決算市会で市としての今後の対応を質したところ久元市長は、過日の法改正を踏まえ勧告制度を速やかにスタートさせるとともに、使えない空き家の解体を促進する補助制度など対策の拡充に努めると明言しました。

※今月号より本文にユニバーサルデザインフォントを使用しています。

バリアフリートイレに大型多目的シート設置を進める



障がいのある子どもを持つ方から、外出先に大型多目的シートがなければ、車の後部座席や公園でレジャーシートを敷いておむつを替えることもあるなど、とても不便な状況をお聞きしました。そこで、設置を進めるには、多くの部署が関係するため、福祉局が旗振り役となってはどうかと本会議で提案しました。

久元市長は、公明党市議団の提案通りに福祉局が中心となって順次進めたいと前向きな答弁をしました。

それを受けて、新神戸駅、グリーンアリーナ神戸に先行して設置工事を行うことになり、来年に神戸で行われる世界パラ陸上の会場では大型多目的シートを仮設で設置することに決まりました。

大型多目的シートとは

乳幼児がおむつを交換するベビーシートではなく、子どもから大人まで、また高齢者の介護にも使えるシート

市役所1号館・1階トイレの大型多目的シート

大型多目的シートを展開した状態

市政へのご意見・ご相談は下記の各区所属議員にお問い合わせ下さい。

東灘区
岩佐健矢
TEL.080-7994-4645
iwasa.kenya@gmail.com

灘　区
髙瀬勝也
TEL.080-6209-7704
takase.katsuya@gmail.com

中央区
萩原泰三
TEL.080-7994-4627
hagiwara.taizo@gmail.com

兵庫区
菅野吉記
TEL.080-6209-7711
yoshinori@sugayan.jp

北　区
徳山敏子
TEL.080-6209-7712
toshikotokuyama@gmail.com

北　区
堂下豊史
TEL.080-4363-9251
doshita.toyoji@gmail.com

長田区
坂口有希子
TEL.080-7674-6456
sakaguchi.akiko2022@gmail.com

須磨区
門田まゆみ
TEL.070-3182-6213
kadota.m.komei@gmail.com

垂水区
壬生　潤
TEL.080-6209-7707
mibujun@gmail.com

垂水区
細谷典功
TEL.080-7674-6455
hosoya.kobe@gmail.com

西　区
吉田謙治
TEL.080-6209-7700
yoshida.kenji@gmail.com

西　区
宮田公子
TEL.080-7674-6451
kimikomiyata0120@gmail.com

地域

地域猫活動を応援 捕獲器・エサを提供

野良猫によるトラブル解消と殺処分ゼロを実現するため、公明党市議団の提案で制定した「神戸市人と猫との共生に関する条例」（平成29年4月1日施行）により、かつて年間1000頭を超えていた殺処分も数十頭まで減少し大きな成果をあげてきました。これは、公衆衛生上の重要な取り組みであり今後の進め方や動物愛護活動の充実について市の考えを質しました。

小原副市長は、一部活動の制約となっていた地域猫活動団体の自治会等の承認も苦情のない場合は省略できるようにするとともに、今後地域団体と理解を深め合う場を設けていくと明言。また、猫の捕獲器や捕獲用のエサを無償で提供することを表明しました。

動物愛護については、ふるさと納税を活用して動物共生センターでの体験型プログラムの強化や動物愛護のイベント実施などにも力を注ぐことを約束しました。

教育

公立中高一貫教育で 一人一人の才能伸ばす

大学入試制度が大きく変わりつつあります。個々の才能を育み人との協力のなかで課題を解決し価値を創造していく教育を目指しています。この目標にそって公立学校の教育も変革をしていくべきとし、公立中高一貫教育の実現を訴えました。

すでにさいたま市や横浜市では中高一貫校が設立され、英語成績が全国トップになったり、充実した科学教育が行われたりして注目をあびており、人口増にも貢献しています。

長田教育長は、成果を上げている中高一貫教育の先進的な取り組み事例について調査し、設立に向け検討すると応じました。

福祉

不妊治療にかかる 先進医療の助成を！

昨年4月から一部の不妊治療が保険適用の対象となりましたが、不妊治療におけるより高度な先進医療については、保険適用外のため県に強く働きかけ助成を行うよう訴えました。

小原副市長は、今年度から県が設置した不妊治療支援検討会に神戸市も参画し、実態調査を行っており、その結果も踏まえて県と協調して必要な支援策を検討してまいりたい。今後も、経済的負担の軽減だけでなく、子供を授かりたいと願う方に様々な面で寄り添った支援を行っていきたいと答弁しました。

福祉

精神障がい者の就労支援・医療費助成を求める！

精神障がい者の就労促進に取り組んできましたが依然として状況は厳しいため、市として雇用主の協力を促すさらなる取り組みを求めました。久元市長は、現在の相談支援体制、職場定着支援の強化に加え、具体例をもとに企業の中で理解が進む対策を検討すると答弁しました。

また同じ障害2級でも身体・知的障害とは生活実態の異なる「精神障害2級」への重度障害者医療助成の適用を求めました。これに対し小原副市長は、当面拡大は難しいが就労支援の強化、相談窓口の充実で支援したいと答えました。

福祉

障がい者・高齢者に 便利なマップを提供

エレベーターや多目的トイレなどのバリアフリー設備が設けられてもどこにあるか場所がわからず、体力的にも精神的にも大きな負担となっています。そこで市内施設のバリアフリー情報を地図上にまとめた誰もが使いやすい「ユニバーサルデザインマップ」を作成してはどうかと提案しました。

小原副市長は、地図を提供している民間のアプリなどを参考に、作成を進めていくと答弁しました。

ブラッドパッチ療法の保険適用を拡充

脳脊髄液漏出症（減少症）は、交通事故やスポーツ時の衝撃等によって脳脊髄液が漏れ出すことが原因となり、頭痛、めまい、不眠など様々な症状を引き起こす病気です。

治療方法は、血液が固まることを利用して、患者自身の血液を注入し髄液が漏れている部分を塞いでいくブラッドパッチ療法が用いられ、2016年4月から保険適用となりました。一方、保険適用を受けるには、患者が立ち上がる際に強い頭痛が生じて立ち上がることが出来ないことが条件にあることから、立ち上がる際に頭痛を伴わない患者は適用外となります。

同じ病気でも症状によって保険適用の有無があることは改善すべきと、「ブラッドパッチ療法における保険適用の要件緩和及び診療報酬の評価改定を求める国への意見書」を公明党市議団が他会派へ呼びかけ議会に提出し、全会一致で採択しました。

脳脊髄液減少症患者・家族支援協会ホームページ
http://www.npo-aswp.org

こども医療費

令和5年10月から 高校生の通院費が軽減

近畿の政令市でトップ

これまで高校生の通院費は3割負担でしたが、中学生と同じく医療機関、薬局ごとに所得制限なしで令和5年10月から1日最大400円になりました。

公明党が継続して負担軽減を訴える中、近畿の政令市で一番進んでいます。

■自己負担額　（所得制限なし）

対象	通院治療費	入院治療費
0 ～ 2歳	自己負なし	無料
3歳 ～ 高校生※	1日最大400円を月2回まで（3回目以降は無料）	

※18歳到達後、最初の3月31日までの方で高校などに通っていない方も対象

助成を受ける方法　原則、手続きは不要で新しい受給証が対象者に届いています（申請が必要な方には、案内チラシが送られています）